

令和7年 **4**月の**優しさ**通信



児童精神科 足りぬ専門医 発達障害、初診待ちに数か月

遠隔診療へ移行も模索

- *発達障がい児診断の初診待ちの全国平均は2.6か月。
- *受診希望者が増加する契機になったのが、2005年施行の発達障害者支援法。
- *障害の特性やライフステージに応じた支援を国・自治体の責務と位置づけたことで、教員や保護者の間で認知度が高まりました。
- *文部科学省の2022年調査は、通常学級に在籍する小中学生の8.8%に発達障害の可能性があると推定します。
- *前回2012年調査から2.3ポイント上昇。
- *通常学級に在籍しながら必要に応じて別室などで授業を受ける「通級指導」を利用する小中学生も2022年度に過去最多の198,343人と、10年間で3倍近く増えました。

☆発達障害

- *自閉スペクトラム症（ASD）や注意欠陥多動性障害（ADHD）などの総称。
- *脳の機能障害が原因とされる。
- *コミュニケーションが苦手、物事が計画的に進められないなど、症状は個人によって異なる。
- *幼少期に症状が現れることが多く、早期の発見や支援が重要とされる。
- *大人になってから診断されるケースもある。

(2025年3月3日 日本経済新聞記事より抜粋)





児童虐待「心理的」59% 2023年度最多 22.5万件

児相の体制強化

*全国の児童相談所による2023年度の虐待雄団対応件数が前年度から10,666件(5.0%)増え、過去最多の225,509件に。統計開始から33年連続増。

*心理的虐待が134,948件と59.8%を占めます。

*うち子どもの前で家族に暴力をふるう「面前DV」が78,914件。

*身体的虐待は51,623件(22.9%)。

*ネグレクト(育児放棄)は36,465件(16.2%)。

*性的虐待は2,473件(1.1%)。

*虐待された子の年齢は3歳が14,432件で最も多くなっています。

*身体的虐待の割合は、年齢が上がるにつれて増える傾向がみられます。

(2025年3月26日 日本経済新聞記事より抜粋・引用)



歩行中の死傷者数 「魔の7歳」が最多 3436人

5年間、登下校に不慣れで

*2020~2024年の5年間に全国で発生した歩行中の交通事故の死傷者数(軽傷を含む)は、全年齢のうち7歳が3436人で最多。

*7歳は登下校に不慣れな少額1、2年生に当たり、「魔の7歳」とも呼ばれます。

*交通安全の知識や経験が少ないことが背景に。

*6歳以上12歳以下の児童の支社・重傷者数は1875人。

*月別では通学が始まった4~6月にかけて増加。

*夏休み明けの9月から再び増え、10月の218人が最多。

*下校時が最も多く、25.8%。登校時の2倍以上。

*自転車乗用中の死傷者数は、16歳が17141人で最多。

(2025年3月28日 日本経済新聞記事より抜粋・引用)

